



農委だより 常総

平成24年1月1日発行
第 12 号

〒303-8501

茨城県常総市水海道諏訪町3222-3

電話 0297-23-2111・9018(直通)

発行／常総市農業委員会

編集／農委だより常総編集委員会



昨年末に開通した石下橋から筑波山を望む

年頭のごあいさつ



農業委員会 会長
倉持 創一

新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはご家族おそろいで、輝かしい希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

日頃より農業委員会活動につきましては、特段のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年は3月11日の東日本大震災を始め、福島原発の事故、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉への参加等、日本農業・農政の歴史の変革期に直面した激動の年でした。特に農家の皆さんが

関心をもたれておりますTPP交渉参加については、究極の選択の時期が来た感じだと思えます。

これからの農業情勢を見ますと、農業従事者の減少、高齢化、農業の国際化が急速に進展する中、国際的に体力がある農家を育成することが、今後の日本農業の将来に向けての対策だと思われま

す。また、地域農業の活性化がこれからの農業を支えていくと考えられ、当農業委員会としましても、認定農業者や担い手農家、農業経営拡大に意欲的な農業者に対し、農業政策上の具体的な支援・施策を充実し、新規就農、第6次産業化等、担い手の英知を集め、力強い農業の実現を目指し、農政の推進に取り組んで参りたいと考えております。

本年も、皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

ごあいさついたします。

本年もよろしく

お願いいたします

農業委員

(議席順)

- 喜見山 明
- 草間 正 詔
- 渡辺 勝 一
- 山本 幹 男
- 田村 匡 史
- 相山 とし子
- 増田 亮
- 松崎 信太郎
- 岡野 孝 一
- 内海 浩 之
- 坂入 武
- 菊地 義 男
- 門井 貢
- 倉持 泰 仍
- 山野 喜 仁
- 和田 喜 勇
- 川田 静 枝
- 大山 榮 市
- 石塚 寛 一
- 秋田 文 男
- 古谷 ミチ子
- 橋本 武 夫
- 横島 文 雄
- 鈴木 将 之
- 倉金 一 廣
- 倉持 創 一

地域の担い手として

三坂町 飯田 好徳さん

我が家は普通作の専業農家として、昔から水稲と麦中心の経営を行っています。現在の普通作農家が直面している現状の一つに米価の低迷が挙げられます。そこでまず考えられるのが、経営規模の拡大と作業の効率化だと思います。

我が家の圃場は、水田、畑ともに一枚一枚の面積が狭く、経営規模の割にすべての作業にて効率が悪いという問題があり、これを改善するために畦畔ブロックを取り一枚一枚の面積を広げて作業効率を上げるとともに、農地をできる限り同じ場所に集積し、さらに経営規模拡大のため、より省力的な技術として乾田直播栽培にも取り組んでいきたいと考えております。

次に、我が家で作付けしている麦は、カラスムギなどの雑草の増加や天候不良、固定連作による連作障害により、等級や品質が落ちてしまっています。そこで麦に替わる転作作物として大豆を導入しました。大豆を選んだ理由は、麦以外の作物を入れることで

連作障害やカラスムギを抑えたかったこと、麦の出来がその年によつて大きく変わるの、その危険を回避したかったからです。大豆を導入してまだ4年目ですが徐々にその成果が出てきたと感じています。

最後に、普通作農家の経営は、国の政策の影響を大きく受けてきたこともあるせいか、これまで新しいことにチャレンジする農家はあまりいなかったと思います。しかし、今は国に頼るばかりではなく、自分たちで何とかするという気持ちを持たなければ本当にこの先はないと思います。まだまだ農業に関しては未熟者ですが、地域の担い手としてこれからいろいろなることを勉強していきたいと思います。



大型トラクターの前で

安全な農産物

豊岡町 渡辺 武司さん

秋といえば、食欲の秋。脂がついた「秋刀魚の塩焼き」、松茸ご飯とスイーツの「モンブラン」等、秋の味覚が堪能できるので、私は秋が好きです。

しかし、昨年の秋は例年と異なる様相を呈していた。それは冷凍餃子事件、牛のBSEや鳥インフルエンザの問題が続いたため、消費者は食への不安を感じていた。

その様な矢先、3月に東日本大震災が発生し、不幸にも原発事故が起き、食材への放射性物質の汚染と多方面への風評被害をもたらす結果となった。その対応に生産者の方々、JAそして行政の方々の多大なる尽力に感謝したい。

ここで、消費者の目線で食の安全・安心について考えてみると、食品・食材のリスクに対する消費者の反応やニーズは変化を続けている。その変化に追従し適切な対策を反映させることは重要と思えるが、実質的には不可能に近い

と推測できるため代案の対応策が必要かもしれない。

消費者は、食材等を購入する際、生産者の顔が見え、生産（栽培）方法や経歴、即ち生産者情報（トレーサビリティ体制）が判ると安心感が生まれるので、生産者及び販売者の方々に更なる充実をお願いしたい。また、食の風評被害の予防・食材の安定供給・価格の安定化を図る確実で一番近い道は「食材のブランド化」「地産地消」の推進かも知れない。



農業委員となつて

山野井 喜仁 委員

この度の改選で常総市農業委員として働かせて頂く事になりました。

3年間の任期を、「農地と



山野井委員

農業を守り、地域農業の発展に尽くす事」を絶対使命として、一生懸命努力する所存です。また、常総市だけでなく、全国的に課題となっている就農者の高齢化、後継者への継承と担い手の育成、小規模集落営農の推進、等々、諸問題を解決すべく微力ながら委員として責務を果たしていきたいと考えております。

行政と農業者の架け橋となり、農業者や地域が直面している問題・課題を把握し、農業現場の声を農政に反映させ「私たちの農業」を強く築き上げ、世界と対等に渡り合える日本農業にするために、全力で頑張ります。

まだまだ何も判らない新人ですので、皆様方のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

**農地パトロール
利用状況調査を実施**

農業委員会では、組織運動の一環として「農地パトロール」に取り組んでいます。現在は、「地域の農業と担い手を守り活かす運動」のもと、期間を定め集中的に推進しています。

「農地パトロール」は①遊休農地の実態把握と発生防止解消対策、②農地の違反転用発生防止対策、等について重点的に取り組むことを目的としています。

全国統一の期間は8月から11月ですが、当農業委員会では、12月19日に市内5地区に分けパトロールを実施しました。

また、同時に、管内の全ての農地の利用状況について調査する、「利用状況調査」、さらに、管内の耕作放棄地について、荒廃諸状況を把握する「耕作放棄地全体調査」も実施いたしました。

「農地パトロール」の実施においては、遊休農地や違反転用等の発生を未然に防ぐ啓

発効果もありますので、各地区とも農業委員全員で実施するようにしています。

これらの調査結果をもとに、遊休化した農地の所有者等に対し、耕作再開等の意向の確認、再開指導等、遊休農地の解消、有効利用に向けた取組みを行っていきます。特に、遊休農地は違反転用、廃棄物の不法投棄に狙われる傾向が高く、この防止、早期発見のため、農業委員会の日常活動に加え、今後も、「農地パトロール」を継続してまいります。



農業委員によるパトロール

**かかしコンテストで
農業委員会会長賞を授与**

常総ふるさとまつりのイベントとして「かかしコンテスト」が、石下庁舎周辺において保育所から社会人の団体まで幅広く出展があり、50体のかかしが展示され、盛大に開催されました。

また、11月6日のまつり当日には表彰式が行われ、倉金一廣会長職務代理が、「会長賞」として特別賞を受賞者（岡田幼稚園）に授与されました。誠にありがとうございます。



賞状を授与する倉金代理

平成22年 主要業務実績

農地移動の実態 (1月~12月)

条 項 別	件 数	面 積(m ²)	
3 条	所有権移転	115	251,307
	賃貸借	2	4,769
	使用貸借	18	172,473
	届出	20	66,241
4 条	許可	11	8,093
	届出	11	7,531
5 条	許可	75	76,310
	届出	16	5,794
4・5条制限除外	32	34,466	
大臣許可	0	0	
18条解約	105	203,728	
証 明	非農地証明	7	2,655
	転用事実証明	0	0
	現況証明	15	13,105
農業経営基盤強化	346	1,195,455	

平成22年 農用地利用集積事業

(1月~12月)

地 区 別	面 積(m ²)	地 区 別	面 積(m ²)
水海道	32,270	内守谷	87,748
豊岡	115,734	菅生	62,088
菅原	67,296	大塚戸	9,374
大花羽	89,858	石下	19,350
三妻	72,251	豊田	54,139
五箇	133,793	玉	150,495
大生	167,859	岡田	33,406
坂手	23,651	飯沼	76,143
計			1,195,455
田畑別面積			
田	894,375m ²		
畑	301,080m ²		
計	1,195,455m ²		

農業者年金の加入促進について

農業者年金制度は、農業者の老後の生活の安定と福祉の向上に加え、認定農業者等への保険料助成等を通じて担い手を確保、育成していくという農政上の大きな役割を担っております。

制度の重要性から考えると、加入有資格者全員に対し加入促進の働きかけを行い、将来「制度を知らなかった」という農業者の声が聞かれないよう推進することが重要で、旧農業者年金制度との制度上の違いを十分説明し、一人でも多くの加入者の確保が必要であります。

当市においても加入者は、加入要件がある農業従事者や認定農業者の数に比べ、極端に少ない状況です。

農業者年金のメリットである①自由に設定できる保険料でしかも終身年金、②支払った保険が社会保険の控除となるため、所得税及び住民税の節税に、③担い手農家に対する手厚い政策支援（保険料の国庫補助）等があります。

農業委員会及びJA常総ひかり農業協同組合において、加入促進への取り組みを行っておりますので、よろしくお願ひします。

常総市農年倶楽部(旧水海道地区)の活動報告

11月10日～11日に会員15名の参加のもと、福島県高湯温泉への現地視察研修会を開催しました。当日は天候に恵まれ、二本松の菊まつりなどを見学、会員の親睦を深めました。



二本松市霞ヶ城にて

農家訪問



岡田地区 塩入利夫さん

今回は、千石きゅうりJA部会加温の部の塩入利夫さんを訪問しました。

塩入さんは、親の代から50年以上続くきゅうりの専業農家です。出荷先はJA一筋で、年2作、冬から春及び秋作を900坪のハウスで奥さんと長男の和也さんの3人で作付けています。

特に夏場のハウス作業は暑くて大変ですが、3人だけで切り盛りをしているそうです。今後は後継者のためにも、なるべく農作業の機械化（自動化）を進めており、ハウスのカーテン、天窓等の自動開閉装置などを自作する、とても

器用な方です。

ハウスでは、収穫後、化学肥料など使用せず、牧草を蒔いて土づくりをする一方で、きゅうりはウリ科の植物なので、根からの連作障害となる線虫が卵を産むと収穫に影響が出ますので、木酢を用いての土壌消毒をするなど、新しいことにもチャレンジしていきます。勿論、農薬は減農薬、肥料は自家製堆肥による有機肥料主体で栽培しています。

これからも、安心・安全でおいしいきゅうりを消費者に届けるため、日々精進したいとのことでした。

農業委員選挙人名簿もれなく申請を

毎年1月1日現在で農業委員選挙人名簿を作成することになっております。

資格のある方は漏れなく申請してください。

なお、申請書につきましては、農家個人宛に郵送しております。回収につきましては各地区の自治区長さんを通じて回収しておりますので、よろしくお願ひします。

編集後記

「農委だより常総」12号をお届けいたします。

新しい編集委員によるはじめてのたよりです。「地域の担い手」「消費者として思うこと」「農家訪問」等、地域農家に密着した記事をお届けできるよう、編集委員一同頑張っております。

また、表紙につきましては、11月26日に開通いたしました石下橋から筑波山を望む写真で、鬼怒川とのコントラストがとてきれいです。（カラゝでなくて残念）

なお、身近な出来事などどのようなことでも結構ですので、皆さんからの投稿や、話題をお待ちしております。

営農と暮らしに役立つ



発行日 毎週金曜日

購読料 一月六百元

申込みは農業委員会へ